

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4771000066		
法人名	社会福祉法人千寿会		
事業所名	グループホーム寿		
所在地	沖縄県糸満市字真栄里323番地		
自己評価作成日	平成27年10月14日	評価結果市町村受理日	平成27年12月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=4771000066-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F
訪問調査日	平成27年 11月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれたのどかな場所に位置し、入居者定員9名、デイサービス受け入れ定員3名の小規模な施設です。大家族のような雰囲気の中で、職員と入居者・利用者様が密な時間を持つことができ、一人ひとりがその人らしく生活できるよう職員が丸となって支援しています。生活リハビリ(食事づくり・洗濯・掃除・買い物)、手工芸、レクレーション、ミニドライブと近隣幼稚園への週2回の花の水やり訪問は9年間続き、幼稚園の諸行事に招待されるなど可愛い園児たちとの交流は皆様の楽しみの一つとなっています。又、地域の行事(糸満ハーレー・糸満大綱引き)も欠かさずに参加し糸満ならではの伝統を味わい、見物人との交流の場になっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は小高い所に位置し、風の通りがよく、近くにある公園や図書館はいつでも利用できる環境である。楽しい食事を3食事業所で作り、食事に関する一連の作業に、利用者個々の力を活かしながら参加している。事業所で作ることで、その日の状態に合わせた食事形態や代替えがスムーズにできる。管理者、職員は理念が浸透していると認識している。「寝たきりにしない させない工夫」で、利用者者に役割を持たせ、生活リハビリに生かしたり、利用者のピアノ伴奏での合唱、趣味や活動に活かしている。家族との信頼関係構築し、利用者の思いを家族も協力して支援している。継続して近隣幼稚園との交流、地域の伝統行事の見学、見物人との交流が事業所や利用者への理解を深める活動となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成 27年12月15日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の勤務表に理念を明記、廊下掲示板に事業所理念と職員個々の理念を掲示するなどし、理念の共有と実践につなげ努力しています。	事業所理念と職員個々の理念を勤務表に明記して周知に繋げ、管理者、職員は理念は浸透していると認識している。一人ひとりの個性を尊重して、具体的なケアの統一を図り、役割や趣味、活動等で実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加(糸満ハーレー・糸満大綱引き)や那覇マラソンの応援、近隣幼稚園への週2回の花の水やりと定期的な交流会、近隣スーパーへ買い物に行くなど、事業所自体が地域の一員として日常的に交流できるよう努めています。	地域行事への参加や近隣スーパーへの買物、近隣幼稚園の花の水やり等を継続している。看護学生や中学生の福祉体験も受け入れている。今年目標は「地域と繋がっていききたい」を掲げていて、運営推進委員から「地域のミニデイとの交流」のアドバイスがあった。	「地域と繋がっていききたい」という今年目標を達成するためにも、地域のミニデイをはじめ地域への働きかけに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	看護学生実習・地域中学生の福祉体験学習の受け入れ・地域幼稚園生交流をとおし認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かせるよう努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	利用者・家族・地域・行政等の代表を交えた報告会、話し合いが行われそこの意見やアイデアが問題解決やサービス向上に活かされている。参加しない職員も議事録等で確認し、日々の業務に反映できるよう努力している。	推進会議は市担当者、利用者、家族、地域等が参加して年6回開催し、利用者と一緒に昼食を囲んでいる。会議では事業所の実情や活動、事故、ヒヤリハットも報告され、災害時、緊急時等について活発に意見交換されている。委員には文書で通知し、議事録は次の会議で配布している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の場のみならず、日頃から市担当者との問題解決に向けた報告相談を行い協力関係を築くよう努めています。	運営推進会議に参加や各種申請届で窓口訪問等で情報交換している。管理者は電話や窓口訪問等で、介護報酬改定についてや、デイサービス利用者のサービス変更により加算がとれるか等の確認や空き状況も毎月報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に施設内研修を実施することで職員間に身体拘束をしないケアが浸透し、実践に繋がっています。	家族に身体拘束をしない方針を、契約時に説明している。管理者、職員は禁止となる行為を理解しており、マニュアルを活用して研修も実施している。家族に説明し、現在1名の利用者の居室出入口に夜間帯、安全の為センサーを使用している。	

沖縄県(グループホーム寿)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員が虐待防止に高い意識を持ちお互いに注意・喚起しながら支援を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できる支援に努めます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、内容の改定時、解約の際はそこの都度説明を行い、理解・納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置、運営推進会議の場等において意見や要望等を求めそれらを運営に反映させている。又、日頃より家族との連絡を密にし家族が話しやすい関係作りに努めています。	殆どの利用者が意思の表出は可能で、日々のケアの中で(新聞を読んで等)聞いている。家族からは年1回の家族会や推進会議で意見交換し、面会時に声かけし、聞いている。駐車場からホール出入口に花木の配置で「手摺が使えない」との意見も反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングの場で職員の意見や提案が反映されている。又、定例で行われる業務終了後の懇親会で、職員の意見や要望を聞く機会としています。	月1回のミーティングで各係り(車両、環境、物品、広報等)や職員の意見を聞く機会としている。職員の提案で、居室タンスの整理も業務に位置付け、変化のある身支度に繋げたり、義歯装着難の利用者の装着の工夫を共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員個々の努力や実績、家族状況等を把握し、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働きかけるような職場環境・条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員個々の力量を把握し、法人外の研修の機会の確保や施設内研修を行い、資質の向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県GH連絡会の研修会、社協、福祉関係事業所の主催する行事に参加する機会を作り、そこでの同業者との交流が情報交換やネットワーク作りにつながっています。		

沖縄県(グループホーム寿)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入をする際は、本人の要望等を細やかに傾聴し、安心していただける信頼関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する際、家族の困っていることや意向等を確認し信頼関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプラン作成時には家族にも参加していただき、意向が十分反映されるよう取り組み、サービスの優先順位を見極め、事業所内で対応できないサービスについては外部のサービスの利用を検討して行きます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩として敬意を払い、一人ひとりの個性を尊重しつつ、時には利用者に励まされ、寝食をともにする大家族のような関係づくりに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族との連絡を十分に図り、面会、病院への付き添い、事業所が行うイベントへの参加の声かけ、ケアプランの共同作成等、本人と家族の絆を大切にしながら共に支えていく関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思い出の場所へのドライブ、行きつけの店での買い物、通いなれた病院等、馴染みの人との交流を大事にしその関係が途切れないよう支援に努めています。	利用者が居住していた場所や拝所をドライブしたり、定期受診時に病院のデイケアを尋ね知人、友人と交流している。家族や本人から地域社会での関係性を聞いたり、友人や地域の方の面会時に情報を得て把握している。毎月仏壇行事で自宅に帰る利用者を、家族と協力して支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格、友達関係を把握し、席の配置や孤立者がいないよう利用者同士が関わり合い、支えあえるような関係づくりに努めています。		

沖縄県(グループホーム寿)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した利用者や家族に対し、これまでの関係性を大事にし、機会に応じ経過の確認や相談支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスで本人・家族を交え話あい、希望・意向の把握に努めています。又、意思表示が困難な利用者は普段の生活の中で、本人の思いが自然な形で表出され、職員はその思いを把握するよう努めています。	本人、家族からのアセスメントで日々のケアの中や会話から利用者の思いを把握している。「ヒージャーが食べたい」との意向に、職員で相談して担当職員と食べに出かけている。利用者同士の関係性や表出が困難な場合は表情や仕草等で把握し検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス導入前のアセスメントや日頃のコミュニケーションの中からこれまでの生活史や生活環境等の把握に努め、支援に反映させています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のペースを尊重しながら心身の状態や能力を把握し、一人ひとりが明るく活気ある生活が送れるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントに基づき本人・家族・担当職員その他関係者と話し合い、定期的にモニタリングを行う等して現状に即したケアプランを心がけている。	担当者会議に本人、家族も参加して開催し、思いや意向、趣味や役割等も反映した個別の計画となっている。介護計画は半年毎の見直し、計画に沿った実施記録となっている。モニタリングは3か月毎との話でしたが記録は6か月毎となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果・気づきを個々の介護日誌に記録し職員間で共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的にモニタリングを行い、家族の状況変化に応じ、ニーズに即した支援を行っています。又、外食を希望される利用者職員が付き添うなど柔軟な支援に取り組んでいます。		

沖縄県(グループホーム寿)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族・親戚・友人・地域の行事・馴染みの場所等の本人との関係性を把握し、本人が心身の力を発揮でき豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人及び家族の希望を優先し事業所からの情報提供等を行う等、かかりつけ医との信頼関係を構築し、適切な医療が受けられるよう支援しています。	本人、家族の希望するかかりつけ医を継続して受診している。他科受診も含め家族対応が基本で、家族が遠方の方や困難時には職員が支援している。結果等は連絡ノートで共有し、個別の薬チェック表の活用や月2回の訪問看護で健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で把握した情報や気づきを月2回の訪問看護師に報告・相談しアドバイスを得て、受診やケアにつなげています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の情報提供・カンファレンス等により本人が適切な治療を受け、退院後に安心した生活ができるよう病院関係者との関係作りを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時又は、必要時において心身の重度化や終末期の在り方について話し合い、お互いの意向確認を行っています。	「重度化した場合の対応及び看取りケアの指針」を明確にし契約時に説明して意思確認を行っている。利用者や家族のニーズもくみ取り、必要になった時に家族と話し合い意思確認をすることになっている。	利用者、家族の安心と納得が得られるよう繰り返しの意思確認と職員との方針の共有、不安を取り除くためにも繰り返しの研修や勉強会の開催に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時等に備え、対応手順マニュアルを作成し職員への周知を行い、又、日常の介護を通して実践力が身につくよう努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時を想定した避難訓練を年2回実施し、利用者がより安全に避難し、必要物資の確保や安全確保に努めています。又、地域との協力体制が取れるためにも普段からの関わり強化に努めます。	年2回の自主避難訓練(夜間、地震想定)を実施している。運営推進会議でも災害について意見交換されている。家族への避難場所の周知や、災害に備えた備品、備蓄等の準備はされていない。職員から入浴や排泄支援時に、どのように避難誘導に繋げるか課題となった。	家族等へ避難場所の周知や災害に備えた備蓄等の準備に期待したい。

沖縄県(グループホーム寿)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしています。	一人ひとりのあるがままを受け入れ、在宅での習慣を大事にしている。丁寧な言葉かけや個々の個性を見つけ活動に繋げている。気になる言葉には職員間で注意喚起している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを大事にし、本人が気軽に自分の思いや希望を表出でき、意志疎通が困難な利用者に対しては、コミュニケーション以外の行動で本人の意向が確認取れるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活の中にあっても、一人ひとりの意志やペースを尊重し、職員の都合を強いることのない対応をしています。又、「その日をどのように過ごしたいか」の希望に沿った支援に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常生活の中での身だしなみや定期的な理美容支援、又、行事等にあっては晴れ着やお化粧を楽しみ、リフレッシュできるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に嗜好調査を行い、食事が楽しみとなるよう支援しており、また個々の能力が発揮できるよう職員と一緒に食事づくりや準備・片付けを行っています。	食事は3食事業所で作り、食事に関する一連の作業に利用者は参加している。季節の行事食を作ったり、家族にも一品持ち寄りをお願いするなど美味しいものを楽しく食べる工夫をしている。給食日誌に職員の気づきや代替食を記述している。職員も一緒に同一の食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりの食べる量や状態を把握し栄養バランスにおいても栄養に偏りがないようメニューを工夫しています。又、水分摂取量の記録を行い必要な水分摂取ができるよう支援を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全利用者が口腔ケアができるよう声掛けや誘導を行い、一人ひとりの状態を把握し本人の力に応じた支援に努めています。		

沖縄県(グループホーム寿)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗を減らすことを目標に、一人ひとりの排泄パターンの把握、トイレでの排泄、日中は紙パンツに頼らず布パンツで過ごせるよう支援しています。	排泄パターンを把握し、日中は全員が綿パンツでトイレで排泄できるよう取り組んでいる。本人の不安や羞恥心に配慮してパンツにパットを使用して方もいる。排泄時はタオル等をかけ羞恥心に配慮している。水分量のチェックや腹部マッサージ、散歩等で便秘予防に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は便秘の原因や及ぼす影響を理解し排泄チェック表や職員間の申し送りで利用者一人ひとりの排便状況を把握し、飲食物(繊維の多い食物や牛乳等)の工夫や運動への働きかけ等を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の体調や希望時間に沿った入浴ができるよう心がけ、楽しんで入浴ができるよう努めています。	入浴は隔日で、本人の希望する時間や支援方法(同性介助で、出来ない処を支援)で入浴できるよう対応している。本人が衣類等を準備する方や、好みの石鹸、シャンプーを使用している。入浴を拒む場合は時間をおいて声かけすることで入浴され、「気持ちよかった」と満足している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調や希望に応じて休息をしたり安心して気持ちよく寝ることができるよう環境づくり等の支援をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の処方薬を理解しており、新しく処方された薬、薬に変更があった場合等、職員全員で症状の変化や確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や力をいかした役割・楽しみ事・嗜好品を把握し喜び・生きがいのある日々が過ごせるよう努めています。琉球舞踊の披露・嗜好品の買い物・図書館へ本の貸し出し等		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の要望に沿って戸外に出かけられるよう努めています。又、家族の協力を得ながら家族と外出できるよう支援しています。	日常的に事業所周辺の散歩や近くの公園に出かけたり、近隣幼稚園に花の世話に出かけている。地域の行事見学や浜うり、首里城見学、ドライブ等に外出している。定期的に馴染みのスーパーでの買物や配偶者が入所している施設への面会等、計画に位置づけて支援している。	

沖縄県(グループホーム寿)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	理解できる利用者においては、家族の協力を得、適切な金額を所持し、個々の希望に沿った使い方の支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や関係者との電話や手紙のやり取りの支援を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前の四季折々の花、障害物のない廊下、ホールでは作品の展示、馴染みの音楽、適度な照明、季節に応じた温度調整等、利用者にとって居心地の良い場所であるよう工夫しています。	利用者の集うホールは明るく、風通しがよく利用者の共同作品等が飾ってある。朝夕は食堂で昼はホールと食事の場所を変えることで利用者が一日のリズムを作りやすくしている。改築して出来たステージは敬老会や誕生会等の催しに使用され、利用者の楽しみとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	常に利用者一人ひとりの居心地に留意し、必要に応じて席替えや模様替えを行い、居心地の良い居場所作りに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の写真や本人のお気に入りの写真、本人の馴染みの物や自作の作品を飾り、居心地良く過ごせるよう工夫しています。	馴染みの箆笥や鏡台、テレビ等を持ち込んでいる。利用者の動線に合わせて家具を配置し、家族写真や作品等を飾り、それぞれ個性のある居室となっている。在宅と同じ茶の間のような環境にと、家族が畳を持ち込んでる方もいる。日曜日は職員と一緒に居室の掃除を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、利用者が安全且つできるだけ自立した生活ができるようバリアフリーで、手すり等が設置、ベッドの高さや家具などの配置も配慮し暮らしやすいように支援しています。		